

2020 年 3 月期 中間決算報告

株式会社ソラシドエア(本社:宮崎県宮崎市、代表取締役社長:高橋 宏輔)は、本日 11 月 27 日(水)、2020 年 3 月期中間決算を取りまとめました。詳細につきましては別紙「2020 年 3 月期中間決算短信」をご参照ください。

1. 2019 年 9 月中間期(2019 年 4 月 1 日~9 月 30 日)の業績

(1) 概況

当中間会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の着実な改善や企業収益の高水準での底堅い推移等により、景気は緩やかに回復しました。今後も当面、弱さが残るものの、緩やかな回復が続くことが期待されますが、海外経済の不確実性、原油価格の上昇や金融資本市場の変動の影響により、我が国の景気が下押しされるリスクについて留意する必要があります。

当社を取り巻く環境は、LCC を含む他社との競争の激化等により、一層厳しさを増しております。このような環境において当社は、「2017~2020 年度 中期経営戦略」で掲げた目標を達成するため、安全運航を堅持しつつ、持続的な収益力の確保と更なる成長に繋がる取り組みを続けています。国内外における LCC のネットワーク拡大や空港機能強化等により大きく変化することが見込まれる競争環境の変化に対応しつつ、中長期的な成長を実現するために、2019 年 5 月 29 日に事業戦略(路便計画、機材計画)の見直しを公表しました。

営業面においては、九州おトク旅！キャンペーンやプラチナスポンサーを務めた『2019 ISA ワールドサーフィンゲームス』開催を記念した宮崎「いい波！」キャンペーン等の各種キャンペーンの展開、電力インフラを観光資源としたインフラツーリズム推進への参画による旅行商品の造成等、「九州・沖縄」にこだわった施策に取り組みました。また、8 月に東京(羽田)ー沖縄(那覇)の深夜早朝臨時便、9 月には熊本ー台北(桃園)の国際線チャーター便を実施しました。

サービス面においては、オリジナルコーヒー“スマイルブレンド”へのリニューアルをはじめとしたソラシドエアらしさにこだわった機内ドリンクの提供および機内エンターテインメントサービス「ソラタイム」の充実化等により、機内サービスの向上を図りました。

(2) 業績状況

当中間会計期間における業績は、営業収入が 21,378 百万円（前年同期比 5.8% 増）となりました。事業費は 17,704 百万円（同 8.6% 増）、販売費及び一般管理費は 2,207 百万円（同 9.5% 増）となり、この結果、営業利益は 1,465 百万円（同 22.8% 減）となりました。営業外収益 8 百万円（同 86.0% 減）及び営業外費用 54 百万円（同 10.7% 増）を加減した経常利益 1,419 百万円（同 25.7% 減）は前年同期に比べ 491 百万円減少しました。税引前中間純利益は 1,419 百万円（同 25.7% 減）、中間純利益は 1,083 百万円（同 12.8% 減）となり、中間会計期間においては増収減益となりました。

【業績状況】	2019年9月 中間期	2018年9月 中間期	増減	前年同期比
営業収入（百万円）	21,378	20,205	1,172	5.8%
営業費用（百万円）	19,912	18,304	1,607	8.7%
営業利益（百万円）	1,465	1,900	△435	△22.8%
営業利益率（%）	6.8	9.4	△2.6	—
経常利益（百万円）	1,419	1,910	△491	△25.7%
中間純利益（百万円）	1,083	1,243	△159	△12.8%

(3) 財務状況

【財務状況】	2019年9月中間期	2019年3月期	増減
総資産（百万円）	30,281	30,471	△189
純資産（百万円）	12,462	12,022	440
1株当たり純資産額（円）	58,629.44	56,558.40	2,071.04
自己資本比率（%）	41.1	39.4	1.7

※ 自己資本比率は小数点第2位以下を切り捨て

(4) 運航実績・輸送実績

運航実績は、前年同期に比べ、台風の影響等による欠航の減少、羽田・那覇両空港の空港混雑による遅延の減少および社内での定時性向上を目的とした取り組み等により、就航率・定時出発率ともに前年同期を上回りました。

【運航実績】	2019年9月中間期	2018年9月中間期	増減
定期運航便数（便）	13,383	12,296	1,087
欠航便数（便）	232	298	△66
就航率（%）	98.3	97.6	0.7
定時出発率（%）	89.5	85.5	4.0

輸送実績は、2018 年度下期での増便(6 便/日)により、提供座席数は 1,381,861 席 (前年同期比 3.7%増)となる一方で、有償旅客数が 931,600 人(同 1.3%増)となったことから、有償座席利用率は 67.5%(前年同期 69.2%)となりました。

【輸送実績】 *コードシェア販売分を除く	2019 年 9 月中間期	2018 年 9 月中間期	増減
旅客数 (人)	931,600	919,815	11,785
座席キロ (千席・キロ)	1,451,365	1,396,563	54,802
旅客キロ (千人・キロ)	978,984	967,017	11,967
有償座席利用率 (%)	67.5	69.2	△1.7

2. 2020 年 3 月期の業績予想(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

今後も大手航空会社・LCC を含めた各社との競争が更に激化することが予想されますが、当社は、当初計画通りの業績目標(当期利益 11 億円)の達成に向け、営業面での各種施策による旅客需要の喚起および各種コスト削減への取り組み強化等、鋭意努力してまいります。

以上

<参考資料>

(数値は全て%)

路線別輸送実績 *コードシェア販売分を除く		有償座席利用率 (前中間会計期間値)	提供座席数 前中間会計期間比	有償旅客数 前中間会計期間比
東京 (羽田)	一宮 崎	63.1 (62.8)	0.7	1.2
	一熊 本	69.2 (75.6)	2.5	△6.1
	一長 崎	71.0 (76.2)	0.3	△6.4
	一鹿児島	69.7 (66.5)	1.2	6.0
	一大 分	61.4 (60.2)	0.4	2.4
	一沖 縄 (那覇)	90.2 (-)	—	—
	小 計	67.0 (68.2)	1.1	△0.6
沖 縄 (那覇)	一宮 崎	77.2 (79.4)	△2.7	△5.3
	一鹿児島	82.0 (84.4)	△0.6	△3.4
	一神 戸	75.2 (76.9)	3.8	1.5
	一名古屋 (中部)	56.0 (67.9)	100.7	65.4
	一石 垣	75.4 (79.5)	△1.2	△6.2
	小 計	72.6 (77.8)	8.7	2.4
名古屋 (中部)	一鹿児島	55.1 (-)	—	—
全路線合計		67.5 (69.2)	3.9	1.3